

様式10 (会派用)

行政視察(研修)報告書

令和3年10月29日

南魚沼市議会議長 様

会派名 未来創政会

代表者名 中沢 一博

下記のとおり、視察(研修)が終了したので報告します。

視察(研修) 参加議員名	中沢一博、桑原圭美、永井拓三、大平剛
期 間	令和 3年 7月 5日(月) 10時00分 ~ 時 分 令和 3年 7月 6日(火) 時 分 ~ 10時30分
視察(研修)先	令和3年7月5日(月) 合同会社ミライズ 令和3年7月6日(火) フードバンクしばた
視察(研修) 事 項	・温泉地活性支援を展開する合同会社ミライズについて ・フードバンク事業、こども支援プロジェクトなどについて
視察(研修) 先 面 会 者	合同会社ミライズ 穴澤 恵子 様 フードバンクしばた 土田 雅穂 様
概要及び所見	別紙のとおり

政務活動 調査報告書

未来創政会 永井拓三

期日：令和3年7月5日（月）

場所：新潟県新発田市 月岡温泉

内容：月岡温泉のまちづくり

対象：合同会社 ミライズ

報告：新潟県月岡温泉における、若手経営者等による地域活性化の取り組みを調査した。その取り組みは第1回先進的まちづくり大賞の最高賞にあたる国土交通大臣賞に選ばれた。空き家ではなく「空き店舗」をリノベーションした、まち歩きの拠点を作り、温泉街を中心とした温泉街の賑わいを取り戻したものであった。その主導的な存在は、若手経営者によって立ち上げられた合同会社ミライズであった。ミライズは温泉街の空き店舗を借りて自分たちで低予算での改装をし、酒や米菓などの販売（実演を伴う）を行う新潟らしい特色のある店舗を展開していた。最初の店舗は2014年5月に地酒をテーマにした店舗であった。その後、1年に1店舗というペースで改装を行い、店を立ち上げ、現在では7店舗までに広がっている。これらの活動により、年間50万人の観光客が訪れる月岡温泉では街歩きなどの地域規模でのマイクロ観光に大きな効果が出ている。年間あたり1億円の売り上げがあり、これらの売り上げによる雇用の拡大が活性化をさらに推し進めている。概ね、1店舗あたり3名の雇用を生み出し、シフト制にて運営を行っている。また、雇用の中心は首都圏からのUターン移住者と、地元の高校を卒業した地元の雇用であった。またこれらの活動の中心となる予算に関しては、合同会社を構成している若手経営者の営む宿の売り上げから拠出し、年間あたり600万円～1000万円程度の予算で新規事業を展開している。そのほか、新発田市の観光協会との連携を行い（新発田市と月岡温泉の観光協会は別働組織）集客を行なっている。これらの計画の元々は温泉街にある空き店舗に対する対策がその始まりであった。コンセプトを明確にして計画を実行し、リノベーションやマーケティングに関してはプロに任せて、合同会社ミライズは地元への理解などを中心に広報するなど、分業することで成功につながったと考えられる。

今後は最大10店舗まで拡大する方針で、繁忙期の日売り上げをグループで600万円を目指している。

以上



店舗改装前



店舗改装後

未来創政会政務活動
視察報告書

令和3年10月29日
桑原圭美

フードバンクしばた視察

令和3年7月6日(火曜日)

9:00-10:30

視察場所 新発田市本町3丁目3番3号 フードバンクしばた本部

説明者 土田雅穂

視察の目的

新発田市で母子家庭や子供のいる世帯などに幅広い支援事業を展開している、フードバンクしばた様を視察し、南魚沼市で同様の活動を実施する場合の参考とする。

フードバンク事業

申請を受け、個人宅にスタッフが直接食材を届けている。

申請に関して、細かな質問をして不採用にする事だけは絶対にしないというルールがある。支援の回数には制限がなく、ミルク、紙おむつ、灯油等のお届けや、生活に関する困りごとの相談も受け付けている。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で収入減になった世帯が増えており、ますます事業の重要性が高まっていた。

こども支援プロジェクト

就学援助を受けている世帯に、お米などの食料を継続して届けている。

教育委員会の協力を得て、現在は150世帯が支援を受けている。(うち母子家庭が100世帯) 支援の幅が保育園から大学まで広げてあり、大変貴重な事業となっていた。

就学支援事業・制服リサイクルバンク事業

こども支援プロジェクトの対象世帯に、就学に必要な物品、ランドセル、靴、学用品、運動用具などを購入して提供しており、学校からの支援要請にもこたえている。

小中高校生の入学時の負担を軽減するため、不要となった制服を提供してもらいリサイクルしている。

非常に喜ばれている事業である。

学用品リサイクル事業・生活費品リサイクルバンク事業

2020年度から開始した事業で、学用品の購入が大変だと言う世帯に学用品を提供する事業。市内の全小中学校に学用品のリサイクルボックスを設置し、不要になった学用品を家庭から提供してもらいやすくしている。

同様に生活用品の提供も募っている。

当初、DVにより家財道具を持たずに家を飛び出した方への支援として開始したが、現在は貧困家庭への支援としても大金役割を果たしていた。

ママの休憩室

子育て、育児に悩み鬱になる母親への支援。

元保育士が育児子育ての相談を受け、場合によっては経済的な支援も行う。

産前産後の鬱状態をケアするために有効な事業となっていた。

訪問型病児保育

施設型病児保育では応えられなかったニーズに対応するための事業である。

また、利用の費用を抑えられる効果大きい。

年会費を納めれば何回でも利用が可能である。

活動費はどうなっているのか

運営費は一般会員で3,000/年 団体会員では10,000/年

別途、協賛金、食料の提供等を募り、運営されている。

年間予算は2,000万円ほどであるが、行政からの補助金は受けていない。

活動に賛同し、協力する企業は多数であり、活動の定着に伴い支援の輪が拡大している。

結び

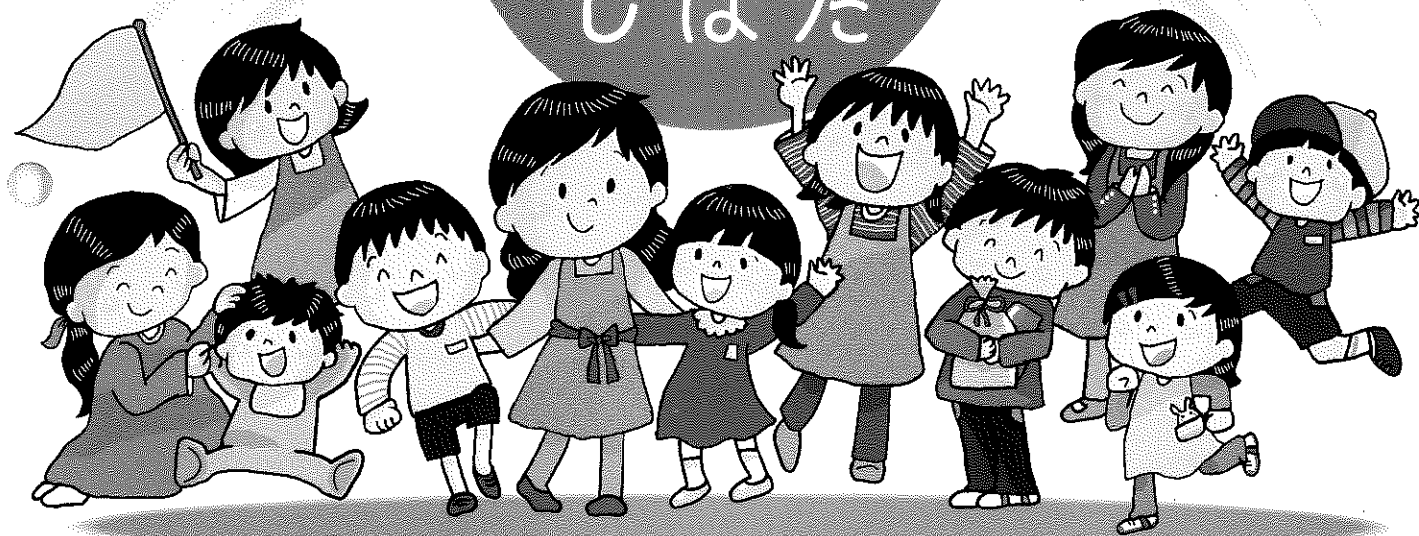
世間一般的に広がりつつある「こども食堂」では問題の解決にならない、というリーダーの土田さんに興味を持ち、視察を申し込んだ。

この家族にはどんな支援が必要なのか?これを明確にして支援する品物を決めていくことが問題解決への道だと理解できた。

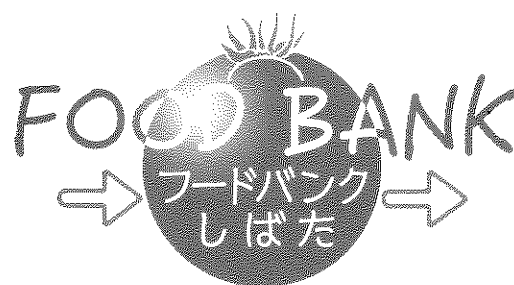
多額の寄付と大量の物資が集まるのは、この活動が理にかなったものである証拠であろう。わが市でも大いに参考となる活動であり、実際に活動が可能になるように努力していきたいと思う。

FOOD BANK

フードバンク
しばた



フードバンクしばた活動報告書



令和3年3月

この活動報告書は、「子供の未来応援基金」の支援金で作成しました